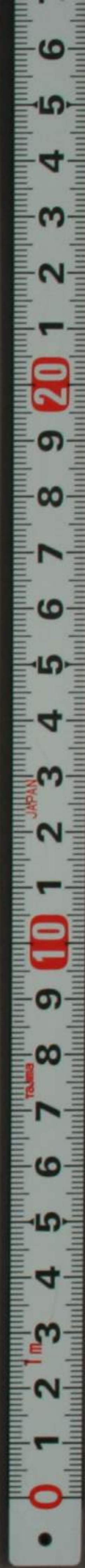


横濱開港見聞誌
下

特別
凡4
4230
3



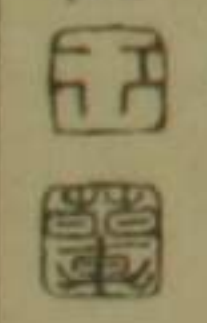
門 凡 4
 號 4230
 卷 3



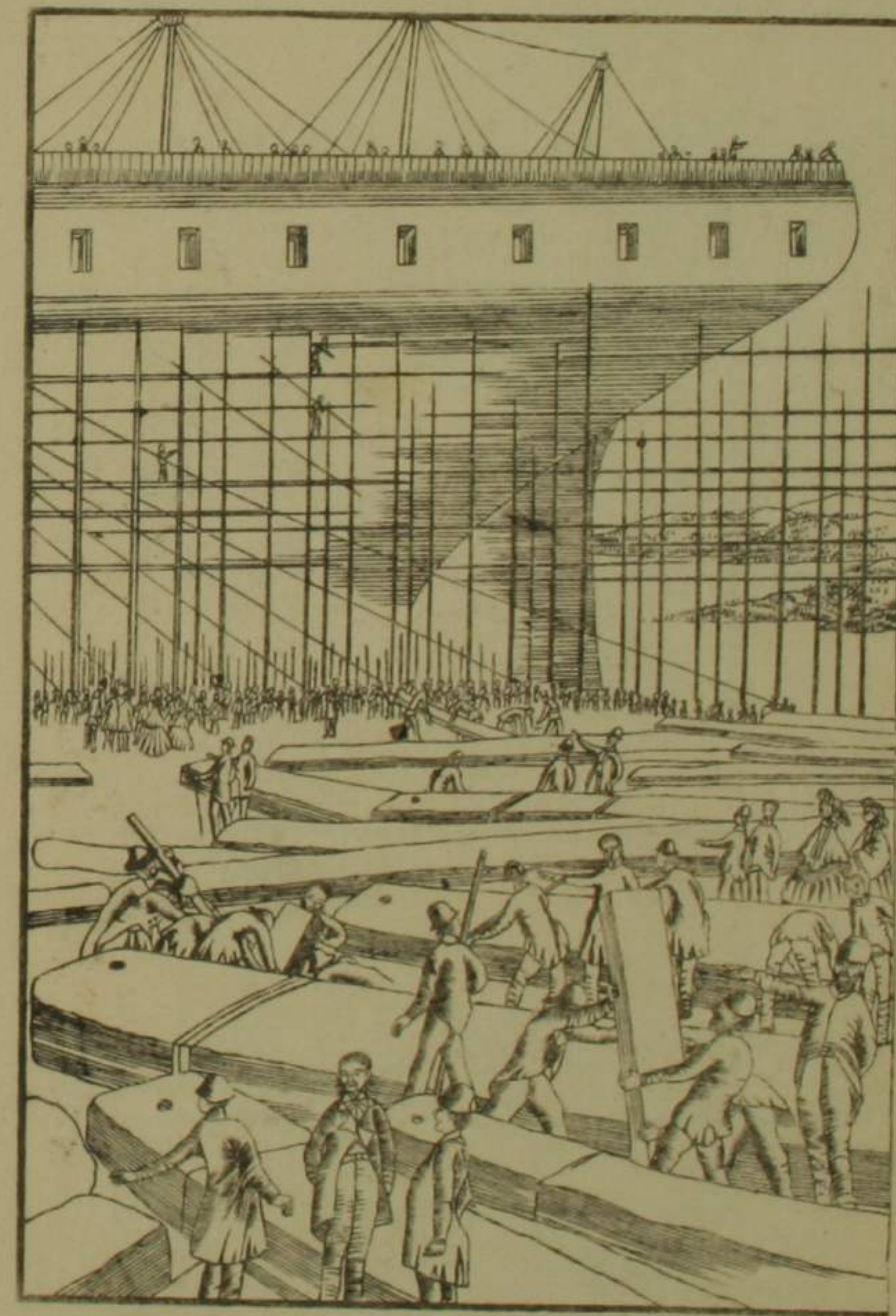
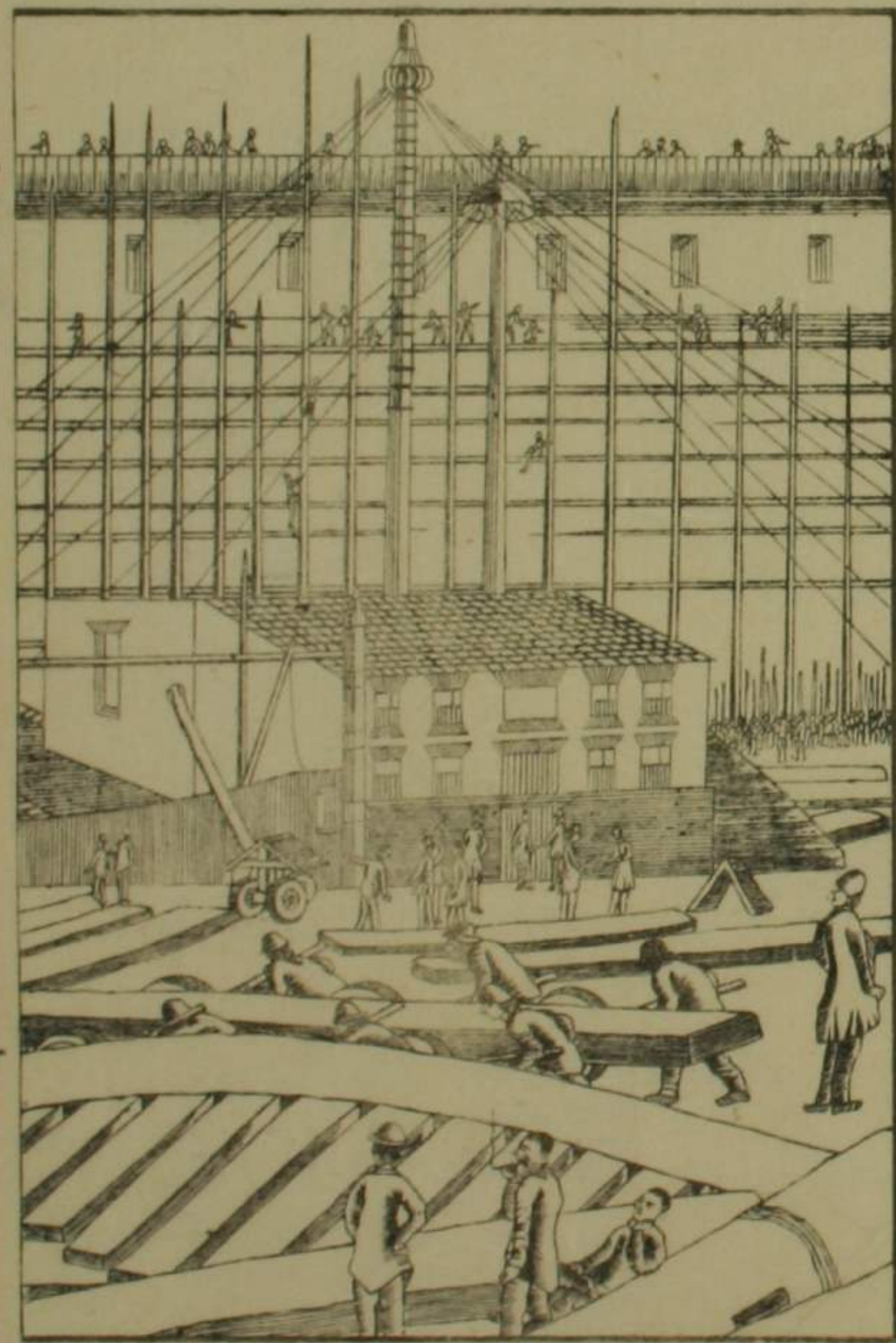
地之間散在所諸州人論と生日業の爲み精心を苦めざるは是
 無其身三品の珍み富豐み世を美運せんが爲あり弟一品衣爲みは弟二品
 食弟三住此三ツも不足有下叶ふまト是か故み男女其勞み勉一なれハ織工
 又六田島み作業とつる山み入てハ茶葉とつと自然富み至るの時其身老と成
 若き時の三ツの大事み富とて以て老と守る織工み富の國人此品と其之地み持
 行て其所み富と替而州の爲みは當時横濱の大交易是あり其渡来織工の
 品を見るみ弟一金中あり又其品三ツ有風車の運力と持ては弟二火輪の力と用る
 弟三を水車中是三品あり其外三極上品重金ありハ人力織あり又羅紗めんと云羊の
 一種と物のみとて織る有其羊の形又婦人の針仕事ありと此編み出せと

文久二壬戌初春

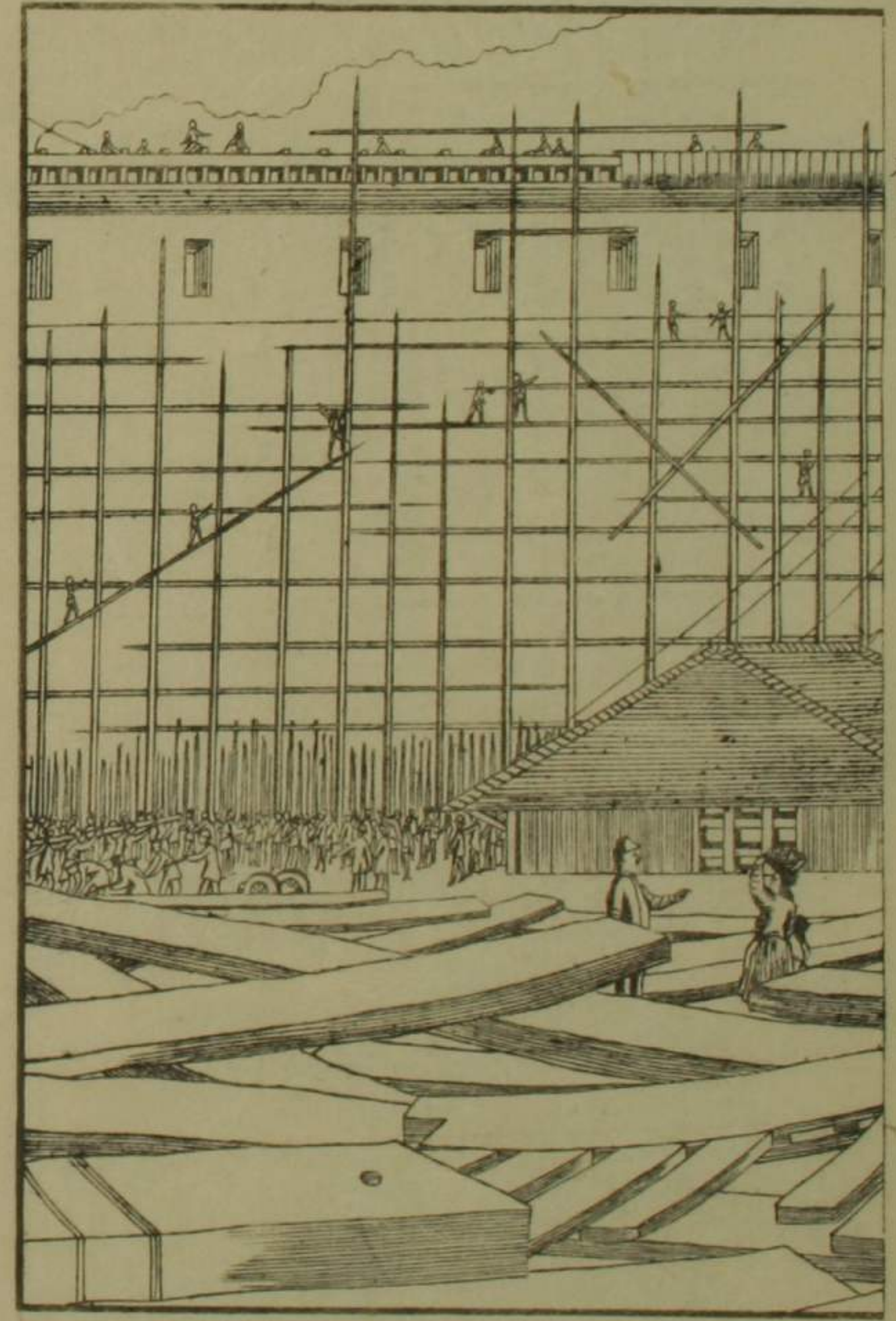
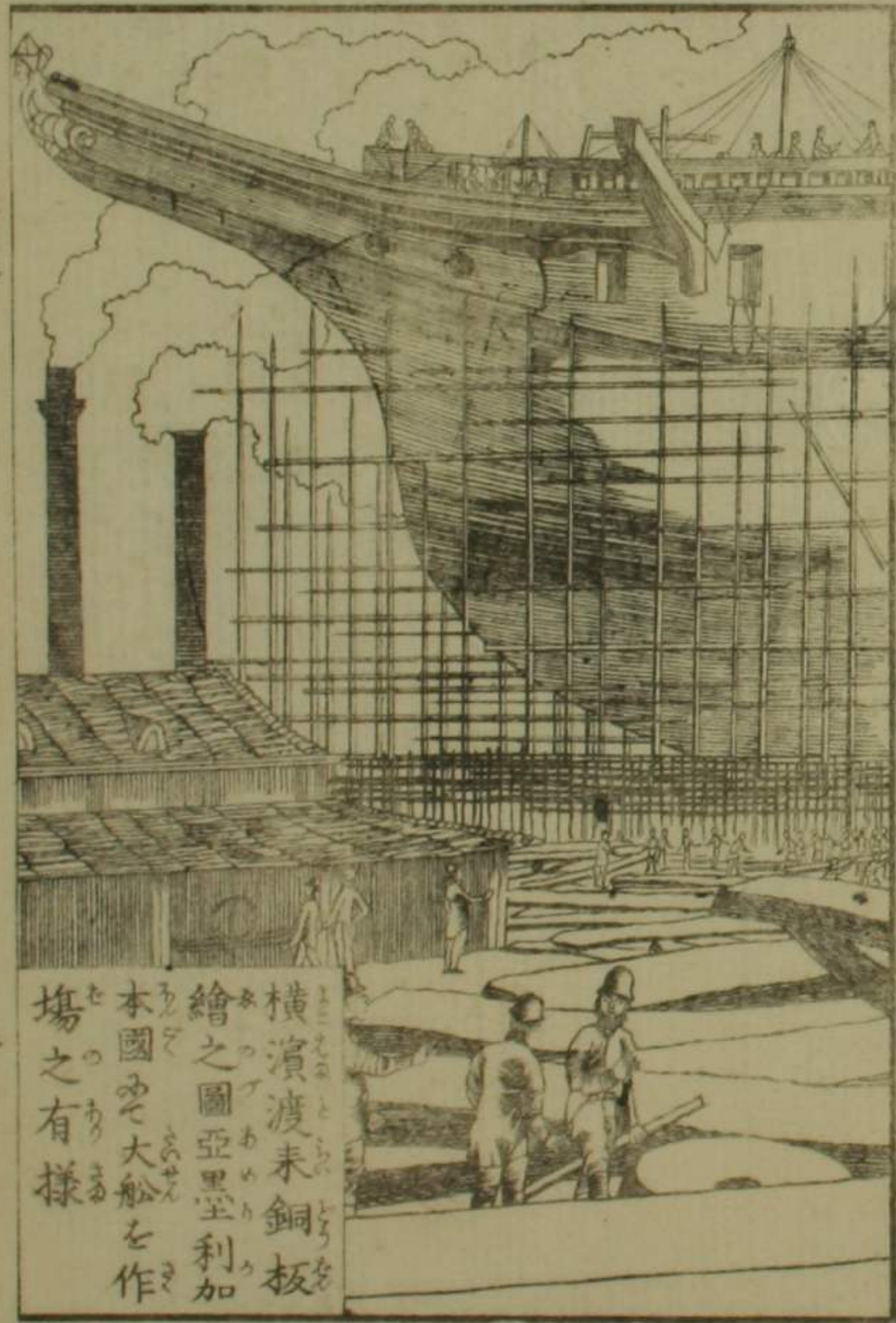
橋本玉蘭齋誌



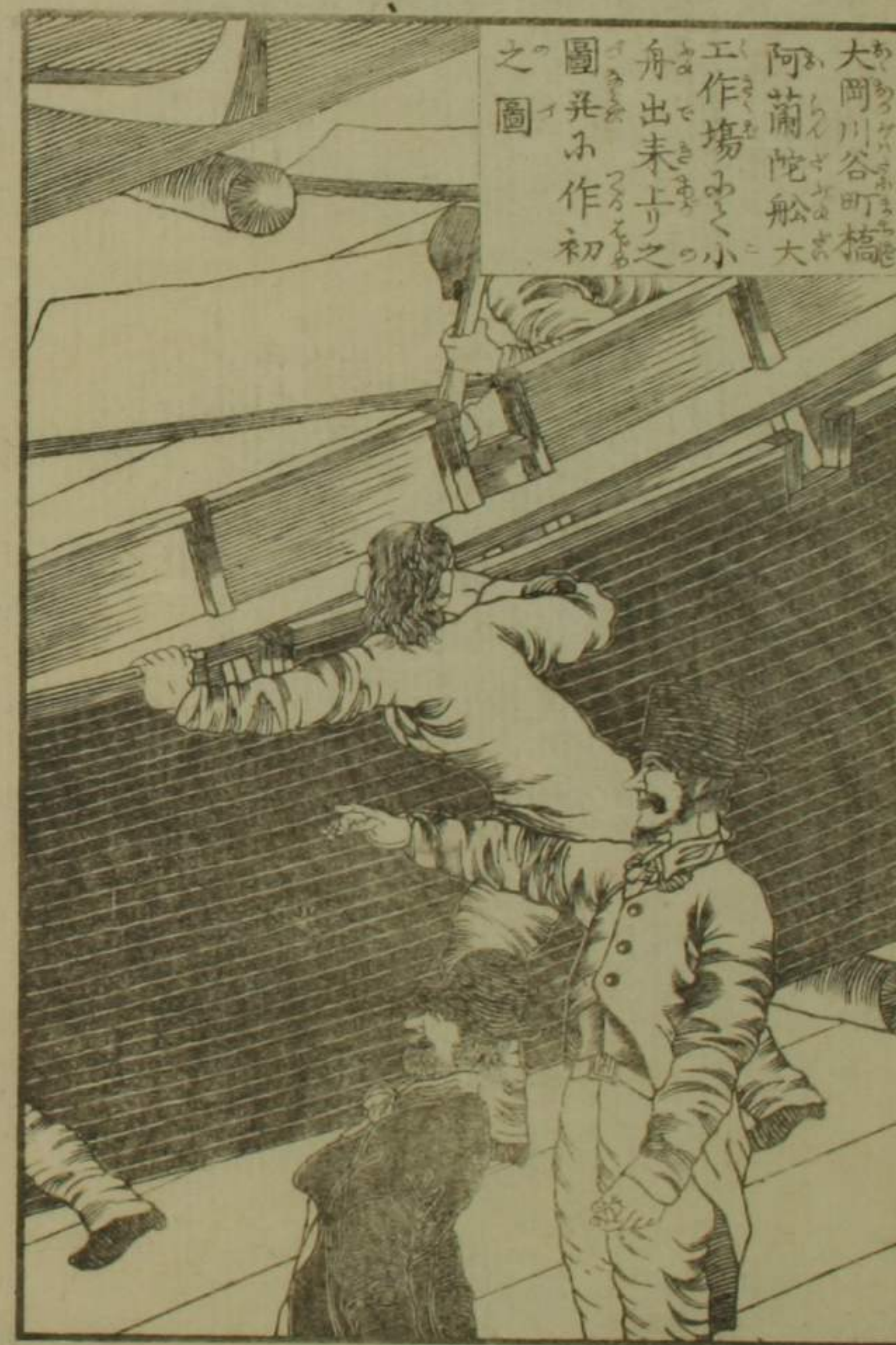
昭和三十年
 一月十八日
 購求



木

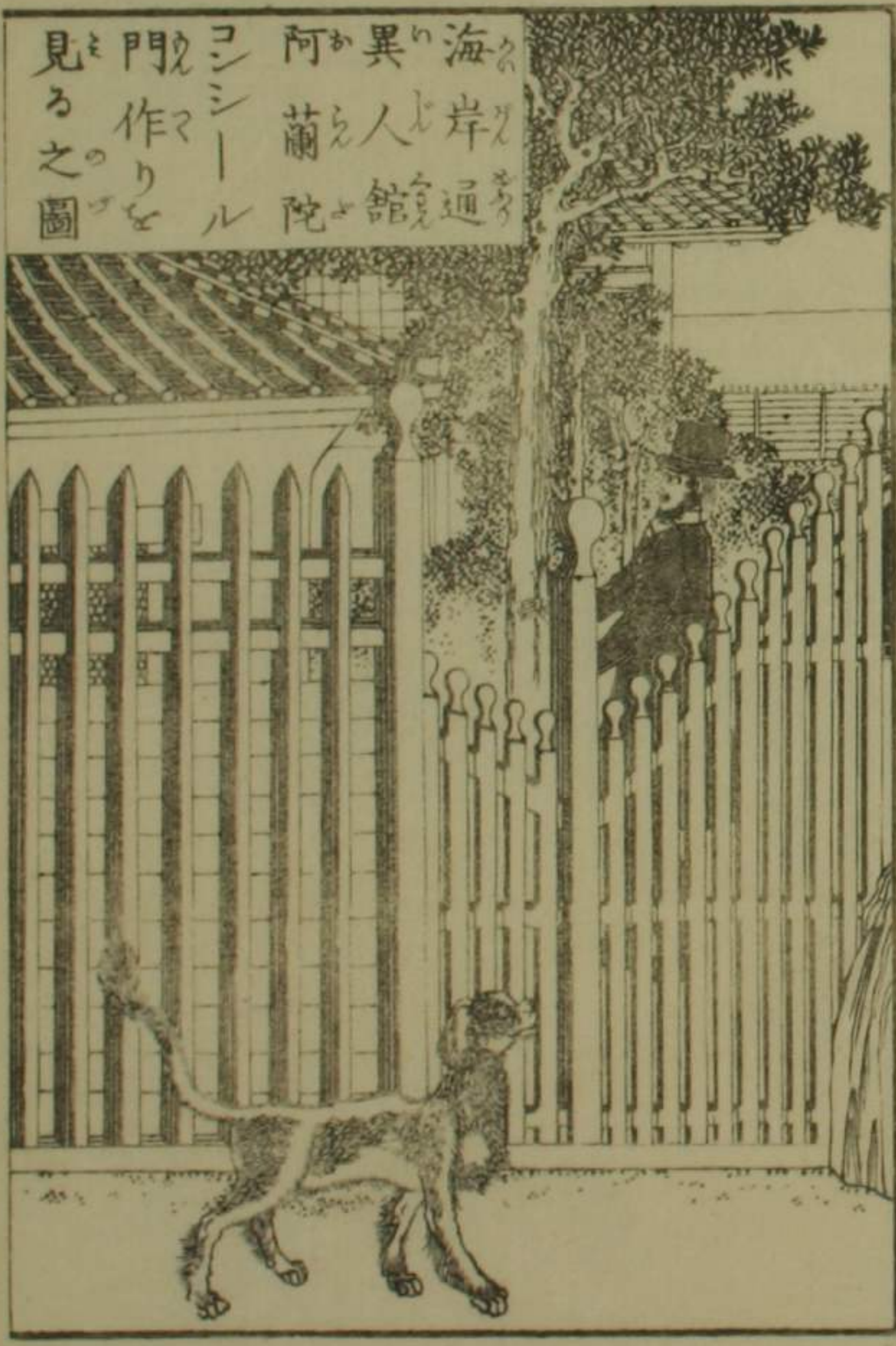


横濱三



大岡川谷町橋
 阿蘭陀船大
 工作場
 舟出未上り之
 圖
 之圖
 之圖

横濱



黄
 三



機
 三

四



黄頁三



横濱三

三
五



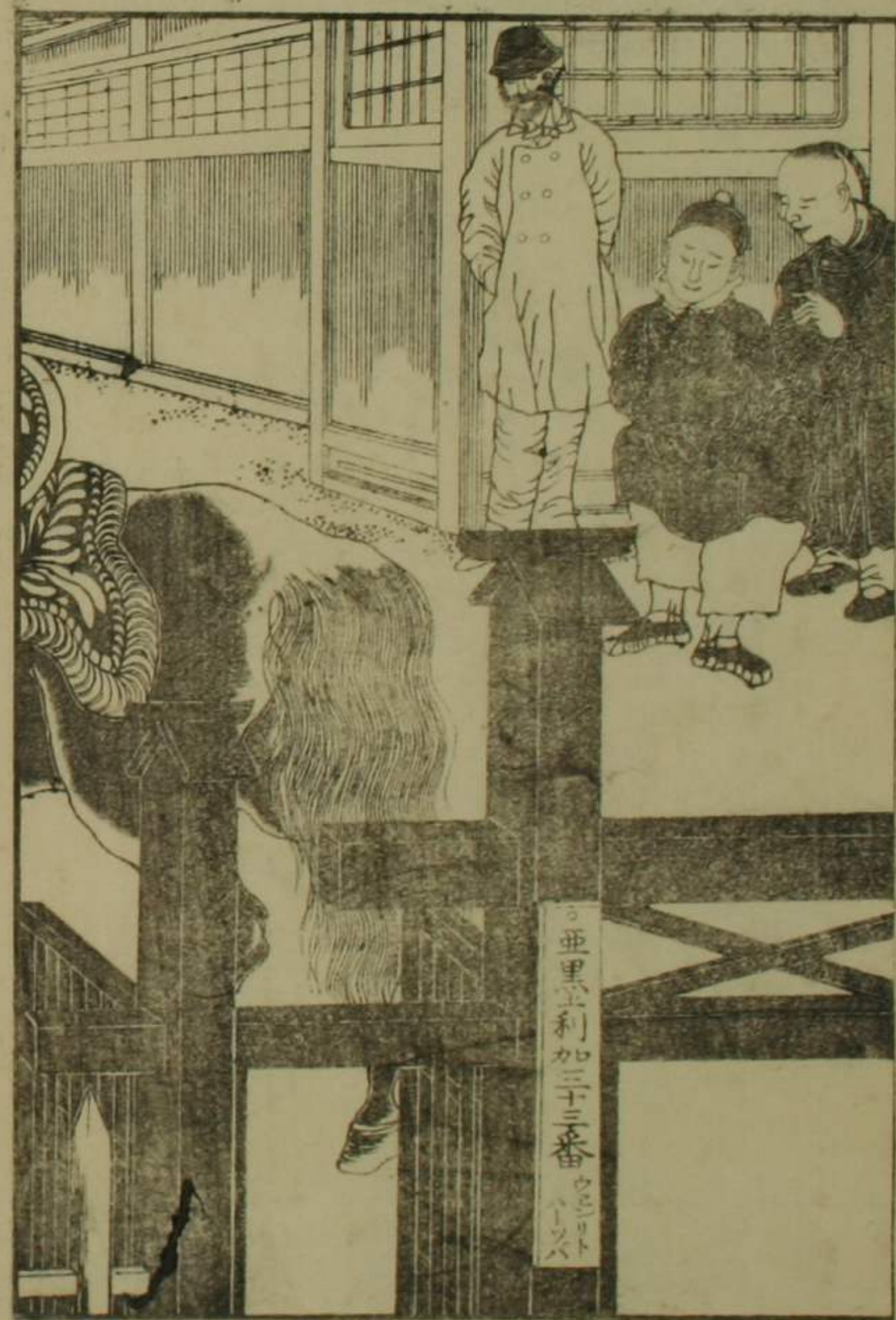
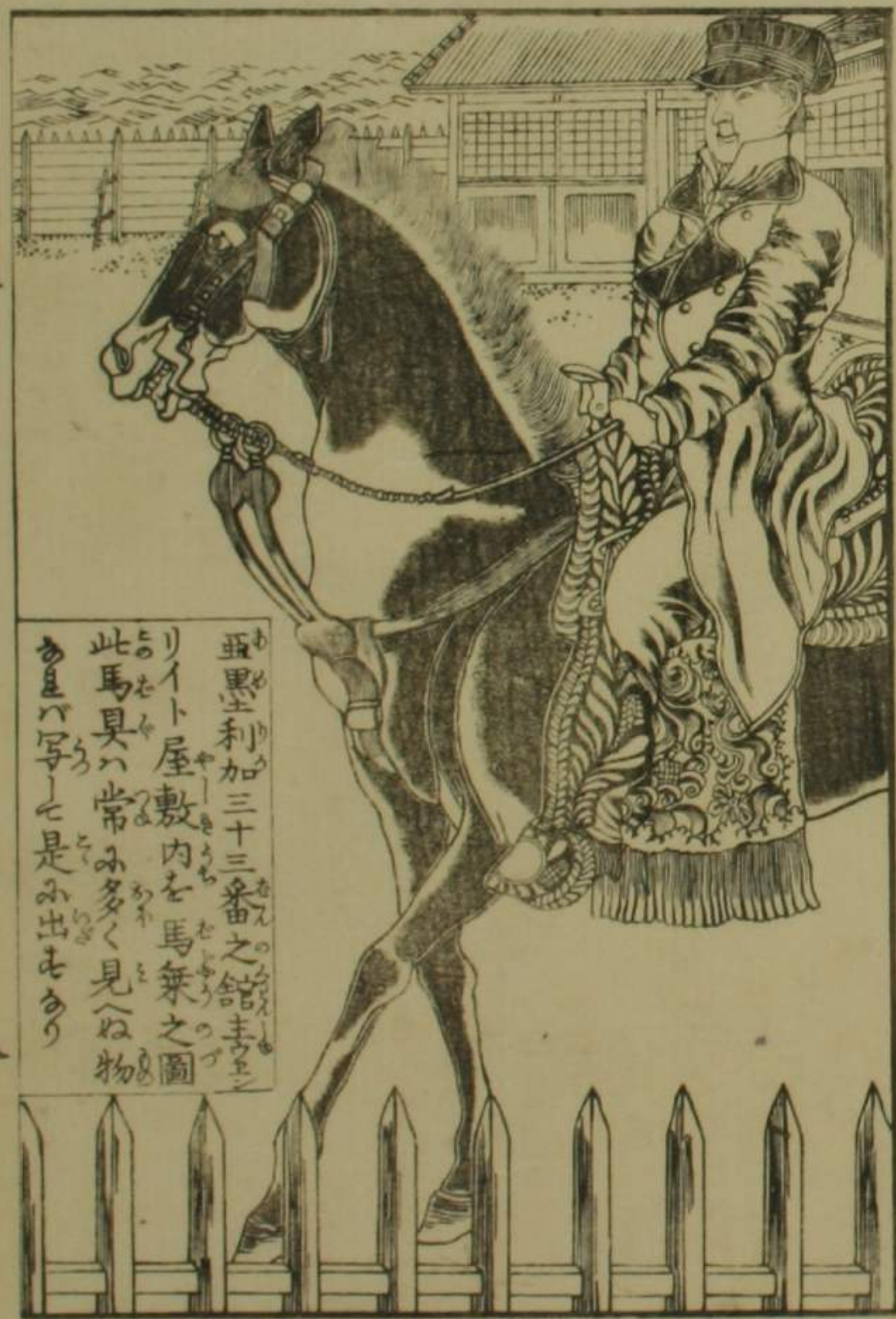
井坂川



異人館内寝屋
 小兒を起さんと
 菓子を与える之圖
 臺の異人南京同
 作なれ共異人之方の
 毛織物を多下引込之

井坂川

六二





黄濱三



横濱三

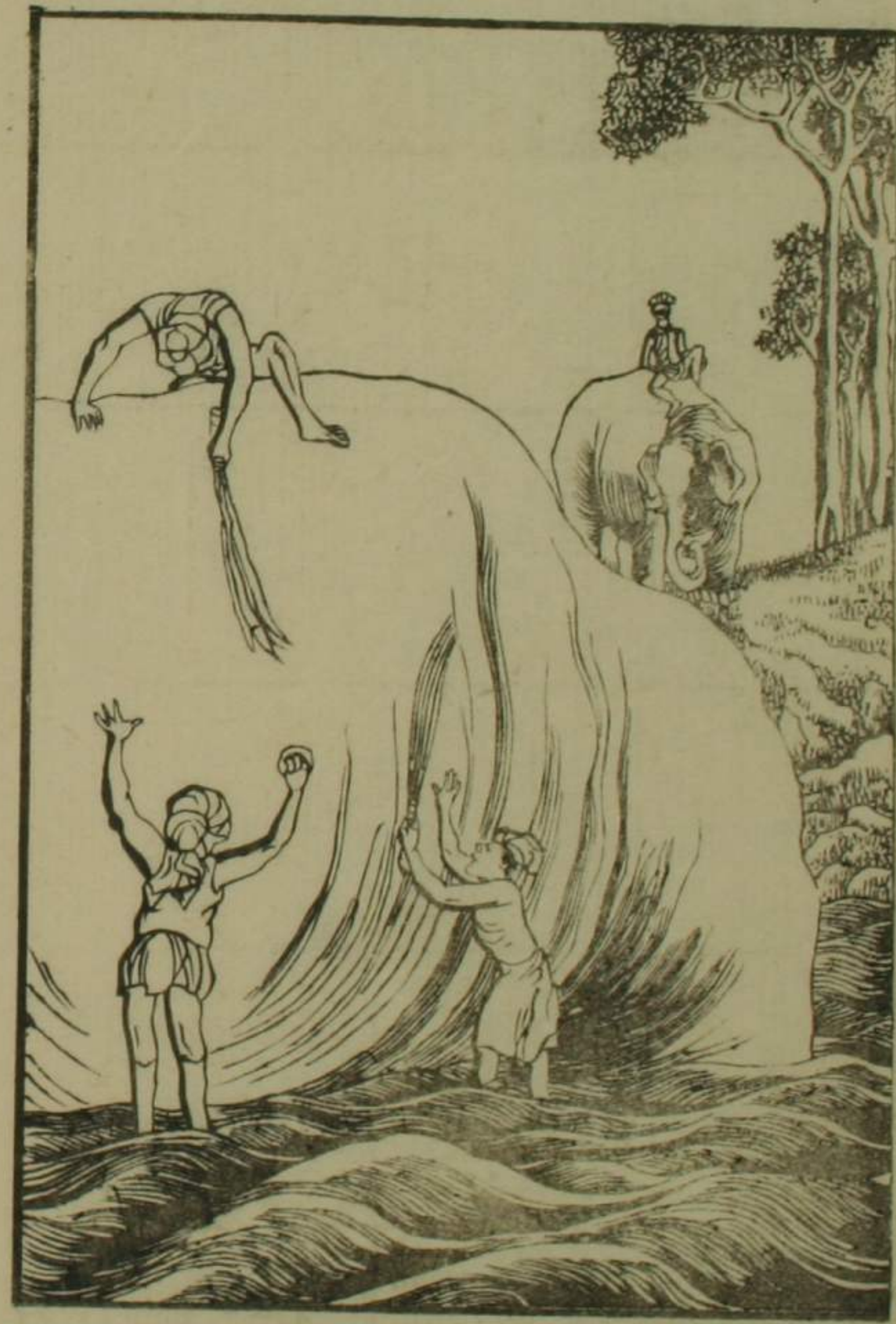
三



異人荷物の内を
 改めて藏み納め
 出船を見合せ積
 入は本國小通
 此因横濱の酒又
 油の樽を多く此
 如く其中を改む

異人荷物
 改めて藏み納め
 出船を見合せ積
 入は本國小通
 此因横濱の酒又
 油の樽を多く此
 如く其中を改む

三
 四二





黒人
男之圖

黄史頁三

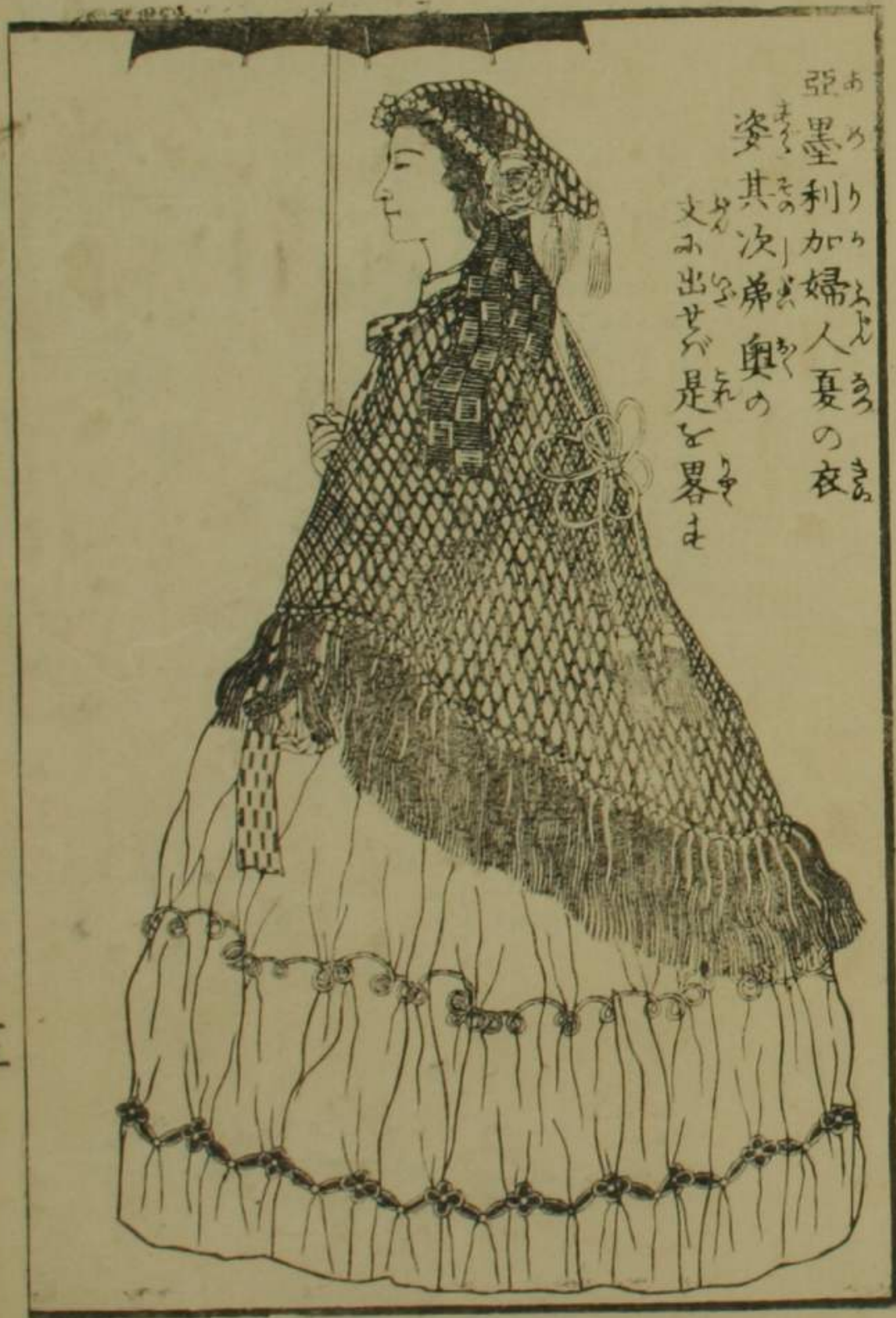
三



異人館内小見の遊びを見らふ大勢集り金輪
 さいふを又竹馬み衆あぐらちみ三才を力の
 小見親父の冠は紙まきつとむる足は同父の
 昔をたぬ手み日今を引まらちと出まら
 さのう化の
 ちみ見へ

木

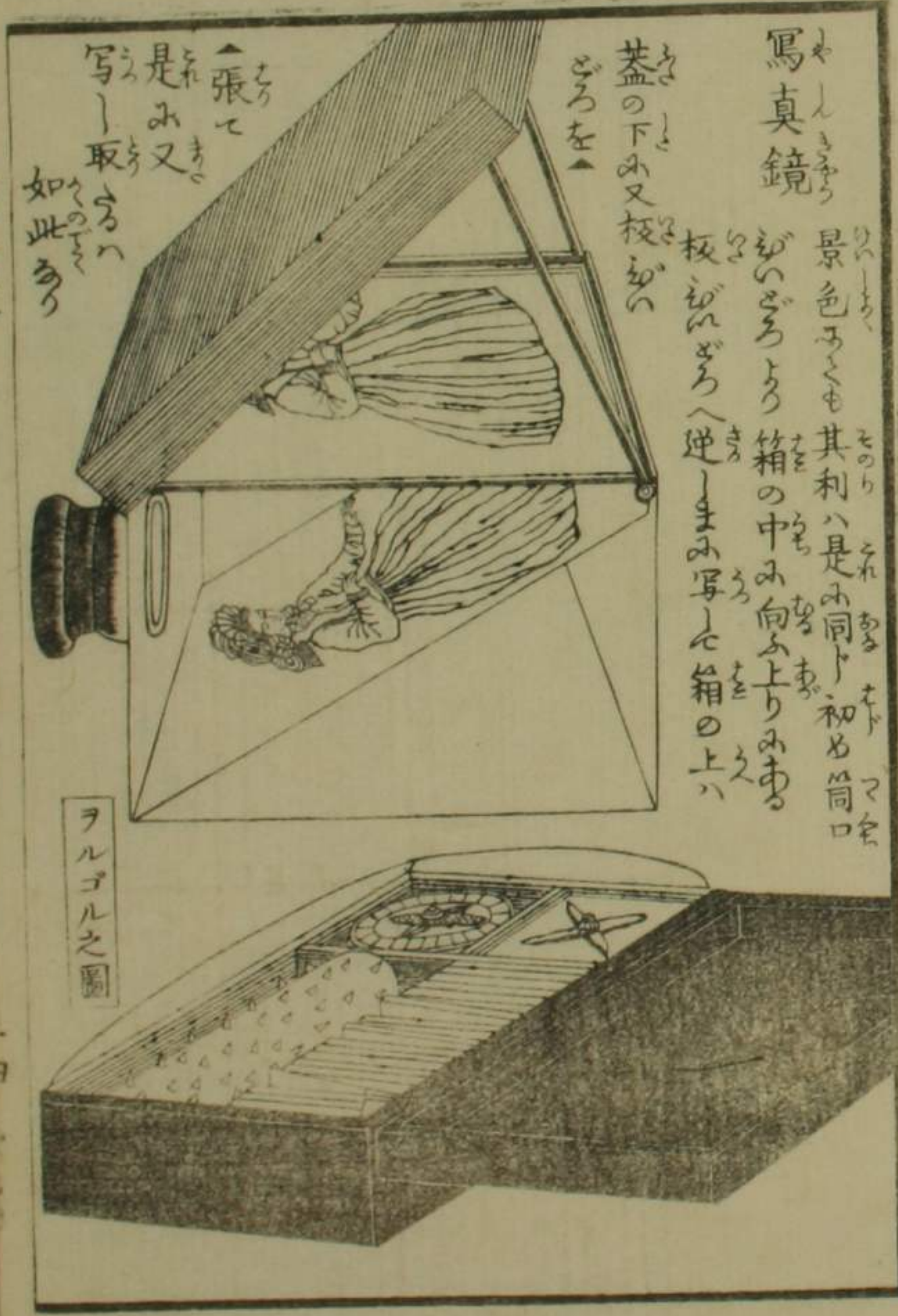
三



亞墨利加婦人夏の衣
姿其次弟奥の
文不出其是を畧す



黑人婦人之圖



黄頁三



同婦人之姿
 冬之夜之圖

木三

三





横濱海岸

横濱海岸
よう写真

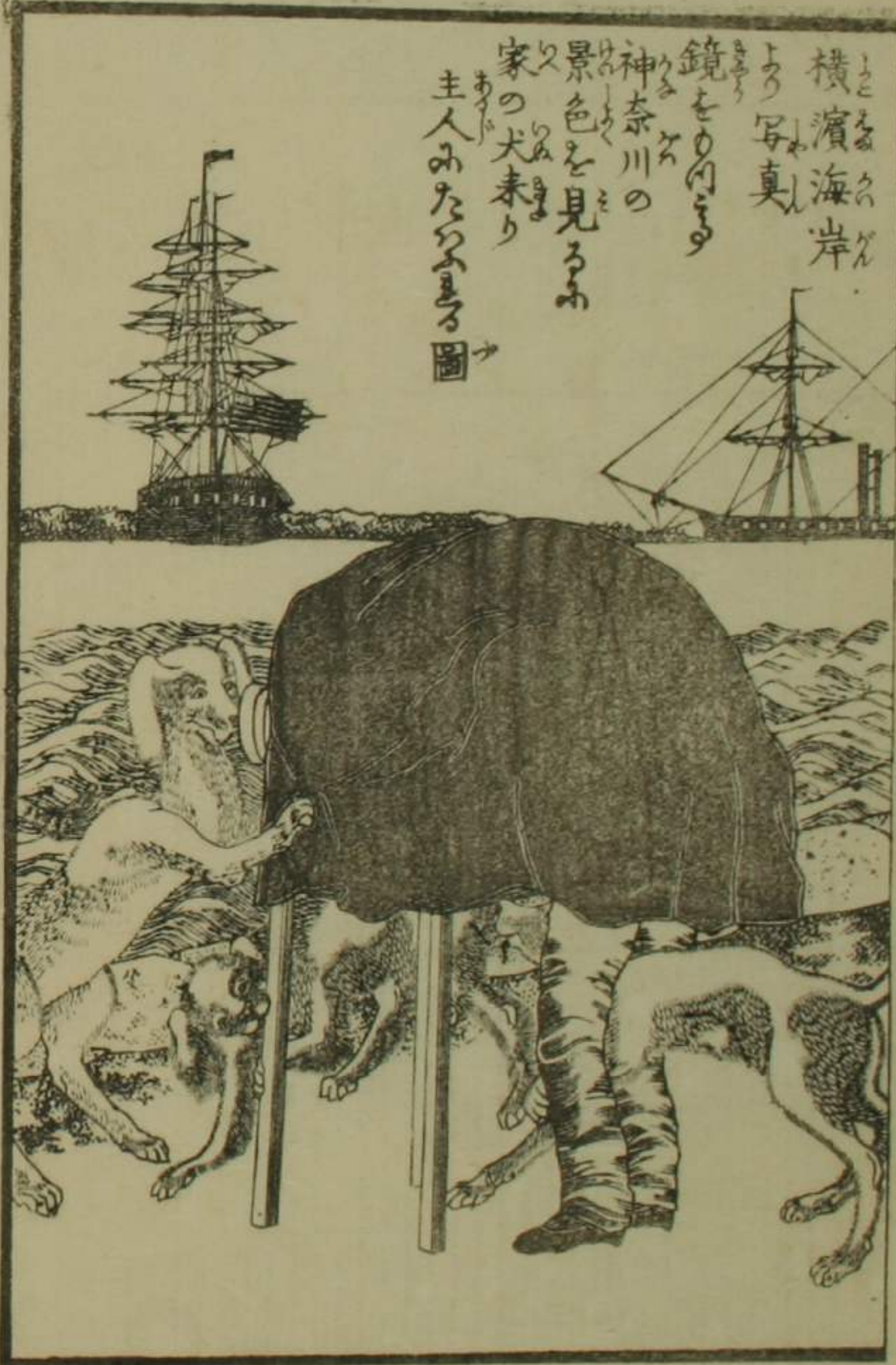
鏡をのり

神奈川の

景色を見るふ

家の犬来り

主人みたりるる圖



此編み出ま所ハ先の二編みゆれろ城次て本町大通り異人町中程迄ハ先み
有バ阿蘭陀寺天主堂より新川み至り左りみ廻りて阿蘭陀船大工の作場小
橋を渡り谷町橋の休み出此処より又西北み廻らして波戸場の方みゆるみ海
岸み付さる角ハ英國の人名ハ「ハイン」此住館あり是ハ右の方より左り角ハ墨利
加の薬師名ハ「ベーツ」其住家あり其次の住館門の上み板を以て札あり 英商太平
洋行と大文字み書此向ハ阿蘭陀の名ハ「ストイト」との人の住家あり其さありて
佛蘭西人門の名札ハ「利名洋行歩列統」此よくみ書スホレットウ住家あり
其次ハ阿蘭陀名ハ「コンニール」住館あり門の立る異形ハ是ハ前の圖中み出
る其次ハ並びく「亞墨利加館人」ウエ「ン」リ「ト」住館その次ハ英國商館名ハ
「ベイカ」此人の住所あり其次ハ墨利加人ハ「ホー」住館その次ハ英國商館名ハ
「ローケセキ」といふ人ハ波戸場み出ル谷町橋より此波戸場み至る迄を海岸通
異商右左りみ立つらね木作の館之左の「み」ハ思ハるはと久とも其門の作り
形内み入て又大み事異あはみ次處み是を去みとさる南京部屋を

横濱三

風流より所みれば自分より床と思ふ高き又余の机のてを臺の上の四隅に柱
を立く是は布と廻らせ前の方出入の所也中と合せほえ金物多しを用ひく
是を止め其上の横柱額をくひ春風来りて青柳を動かさるゝあり左右の
柱のハ立額をくひて山水又ハ花鳥彩色繪多しをひ置ハ其ハ唐土ハ渡り見る
心地をさる其大ハ或ハ二間又ハ二間半是ハ南京人二人を用也又ハ三人一ツ所ハ
共ハ住ま館主も是と同一と云ふ又ハ一際異あり異人右の中の内ハ居るに
其下ハ犬一匹伏て居る又外へ出て中下りて主の有無を犬の居る居ざるを
よく知るに多し此臺の前まで履のき行又本町賣ハ商人是迄きりて
又ハ雪踏駒下駄をくひ入る異人主の部屋との内四面ハ玉板をくひ廻らせ
又下ハ毛織巾とぶツきの大箱ハ入る積上自分外ハ出るとは冠物又ハ
杖のたぐひを曲釘ハかひく或ハ寒暖の計多し重金多しハ見微鏡萬
國の地圖日の時計其外微製の燈臺美支ハあり其容赫異風ハ
南京人ハ其異人ハ中ハ其為ハ来ると云ふ美品重金の物ハ多しと云ふ

唐土の古人米家の山水ハ横ハ葦打る雨中の景又遠くハ唐虎の花鳥其
風味なる繪幅をくひ唐机の上ハ華山の硯石自分ハ心楽ハ部屋の内ハ
在てドンタツの日ハ茶を煎て其香氣をくひて春ハ桜の花ハ心目を
樂まると云ふ吾地の風俗ハ双ハ異と云ふ又大王板ハ左右ハ足木をつく
坐敷の真中ハ立わく物あり其の中ハ印度人多勢ありよりて大象と水
中ハ人ハ多く此所加くと洗ふ其ハ人面ハ色最も黒色あり南京人ハ是を
聞ハ天竺の南地ハ帝帝亞俗人上官の人ハつくと象をわらふ処ありと云
今ハ横濱ハ未ハ異人ハ仕へる黒人の本國とのハ其女性の面体大きく
面を省界してハ此黒人男ハ多分女の好む所の羽根をつくハ阿蘭陀
製の羽子板も其羽根もこの如くハ羽根をくひ上手あり南京
人ハハしと向く所の羽根を足み履のきかともく蹴あつてハ能
えハハとハし又黒人針仕事せんくをくハ船中ハハ最もその
業諸ハ冠さるゝ其身ハ付る衣類ハ美事ハハ緋ハのこちりめん

と頭あたまの巻まき又筒袖つとそでも是とも紫麻むらさきあしの子こう浅黄あさぎの中形ちゆうがたの紙かみよりつゞ
女黒人おんなくろじんハさのみ其その工たくらみあつた男おとこハさるるを好このま夜よもさるる
美事みごとを好このまね舂つくみ見みやまをく自まづ分の部屋ぶつやみくハ身の廻まわり常用つよく
のさるる又たをこ入本町いほんまちみくドドンタクドンタクみ買かりたりたる日本製にっぽんせいの紙入かみいれ
或あるも子供こどものさんちちく美事みごとみ仕立しだてる呀やまハ銀紙ぎんかみ細こユ又ハ五色ごしきの
ちりめんちりめんみく花鳥はなとりみんと作りつくる花かんざしはなかんざし紙筆かみひつの中なかみ入いれ中ちゆうと
かけく天井てんけいみつりる面おもて色いろと心こころを入いれるとハ大おほみ異いりといとも中ちゆうさく風かぜ
俗よこより此印このしるし帝てい亞あハ五天ごてん空くうのちちみく昔むかしハ教尊きやうそんの教化きやうかある地ちみく南
海觀音なまのくわんおんも此呀このやみかみくと傳つたへるハ人心にんしん大和たいわみく今いまの世人よじんより見みる
またハ大みくぐんぐんのようようみく昔むかしの人心にんしんあつんと思おもひ又また或ある日ひ亞墨利加あむりか
三十三番さんじゅうさんぱん「ワエワエンンリリトト」ある異人馬いじんばみく置おてちちく自分館じぶんくわん中ちゆう廣野くわん
めて日本風にっぽんかぜみ強つよきつりみ乗のりまみみ成なり見みるハ此度このたび渡来わたくりの異いみ多く用もちへ
ざる馬具ばぐとあつみ其舂つくみあつみ馬具ばぐを真写まっしやして前まへの図ず中ちゆうみかま異

人ハ妻つまの熱あつたみも毛織けしを重おもねに着ちかまハ日光にちか衣ぎをつりぬねね熱あつたきと少すく一
とんども横濱よこはまみく男女おんなとことも夏なつハ風かぜの通とほ品しな多く寒ふせ時ときハ織オリつりぬねの
多く熱あつた時ときのその品しな糸いとをのりく唐花たうかみく草花くさなみく蔓つるをみく人ひと微こ紋もんみあや
ざり其間そのまハ風かぜのゆるゆるみくユユるもの緩ゆる着ちかまはる熱あつた時ときハ同おなくあつたみく
みく駒こまさるるところ横濱よこはまみく異人いじんのなをを見ることありとハ人多おほく横濱よこはま
本町ほんまちの大商家おほいけみく十月じゅうがつ廿日にじゅうにち惠美寿ゑみすの神かみをまのり其隣家そのりんかも是
を祝いわひ集會しゅうかいのり人ひとの吉事きちじを祈いのり酒宴しゅえんあつたをみ外ほかより南京人なんきんじん
是こゝを閑ひまく常日つよくひ知しる人ひとの工たくらみあつたをみ得えるをみ入りて三味さんまいせん
み合せ南京風なんきんかぜのその何なにとみく工たくらみ知らされとも文句ぶんくみくき成なり唄うたみあつた
有ある身みをみかくてねまら仕しまひく両手りやうてをつきあつたをみたりといふ
酒さけも多くハ吞のみぐりていせうと立た出でたり何を弾はりもく其三味さんまい
せんみ合せをみ事こと妙たぎ多おほく又西洋あしやうより古ふるく長崎ながさきみ渡来わたくりの品しなみく人ひとより知しる
呀やのラルゴルラルゴルといふの小箱こばこの内うちみく琴ことの音色おんしきを出ですハ大小おほいせうあつた音ねの

高きあり少きあり此品佛蘭察製より成る一品とて其異人乃
 商館主人の奥居間にある國元より新船入津あり此フルゴル多く積
 来り座敷の三方へ積あはれ主人船も用事ありて出行あはれ男
 女の子供よりあひまひ此小箱大箱の如きものをいひて一度ふ是とあら
 ぐれば其音色大小合せく館内あひまひ障子もさけるなりは
 子供あひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 閉るなり鳴りあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 来り見まひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 かしらあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 軀を見まひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 みつまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 此文中あひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 昔より長きあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ

あま安く荒気あはれ其高ハ二尺六七寸ありて面体うさだの白界
 長きやうある白毛あはれ光りあり其毛の細きとありて其手當り結
 よりも和りあり頭上あひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 細き方あひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 あひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 婦人針仕まひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 る業も糸車を右のまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 みかあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 在家の婦人其細きあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 少いあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 小兒の遊びあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 竹馬あひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひあひまひ
 波戸場より神奈川邊を写真鏡をいひて是は景色を取り其品ハ

画図みあるを見て知るべし此箱大小ありて小成ハ景色微細あり大の方ハ
大い廣くうろ此箱のゆいどろみうろの景色を分明せんと大なる
のとき中を頭上より冠りて其内箱もまとい入して見る箱の口より日光
さし入り景色のゆいどろみありて山水草木人物其色を變はる人
物又ハ帆かけ船あんと見ると内走り鳥も飛来りて木の枝みよれ
ども又飛行て実生る繪とのたしうくみ写しとりて居る内自分養置
犬三匹をとりて主人ある成知りて一匹ハ箱の向ふ廻り中の内みどり込
目鏡の口よりのをき一匹ハ主人の中より立よるまの向み入りてききんれバ
異人大き立腹し中をきんとする時のとき一匹箱の臺足をききん
引るゆい写真の箱をききんとするまの腹立杖を取りてあひ
まろし行多ハ一笑の真ありて是を見よ異人も赤毛の内み白き歯を
いせと大い笑ひて前みかま画図船大工作場の前み大川あり是を新大
岡川といふあり岸み下筋の通りありて大堤の上み是道を五六間切

より赤きぬりたる橋をき諸人の通行とて其下水きより坂のて板
引よ作り上の方ハ作場を段々上りみ船出末のきき丸木を入き左右み
立よ是を引よとてはくと水面み入きと手びみ見あり作場少
き大船洋中乗の物を作るよありと小船を作るよあり第一小船底
板を下の板引よみかき川の方下りて又鼻の方を上りて鉄のかまがのて
き物をのりよとみ平み見込左右み筋木を作り立よだんくみ仕じりよ
時先みち込ミ留たる鉄のかまがを打よせ船前の方下りあきみ丸
木の上みの是みく水面を走ること船大工仕形新し小国元みく大船を
作る場所ハ水きと足場をけ作る苦心みよそ其図を銅板み
まりたる紙見せたる紙其き写しよ此編の画図をみみあり此横
濱作場ハよみとがらき舩あり海上みくいみ出来たる小舟み此
所みく作直まよ大船の方ハその国元より乗組て船中みよんの手
當あり外國ハいよみ自分大工みく修のらん此住を大ハ阿蘭陀

来る者あれは多く、国元の用向を弁せらるる、西洋異人、シツブチンメル
 マンといふより、横濱ゆく、園を遊ぶ、あるはあり、海岸通り、異人商館、八波戸
 場の方、バケセキ、ハ、英国第一番、初め次第、其番組、あともこれハ
 第四編の冊中、出ま、又新渡来の異人、あま、バ、次第、みその産物も、品替、あ
 べ、是又写取て、画図、みか、て、微細、み、あ、り、其、異、人、繪、を、取、出、し、諸、國、の
 風土、ハ、山水、海岸、み、生、き、る、草、木、花、鳥、み、至、る、ま、で、の、諸、吏、を、横、濱、み、す
 たり、き、み、する、ま、此、卷、中、み、い、ま、女、異、人、又、ハ、黒、人、南、京、も、其、冬、の、衣、服、異、り
 あり、と、い、ふ、其、人、物、の、繪、多、く、出、さ、ん、と、い、ふ、ま、で、さ、ら、に、み、す、ハ、只、女、性、の、二、圖、を
 画、て、其、余、ハ、畧、ま、り、さ、ま、と、此、文、庫、の、卷、中、に、い、ま、す、異、人、の、ま、で、繪、ハ、あ、ら、う
 多、く、あ、る、と、い、ふ、み、か、く、衣、服、の、替、り、由、大、く、み、是、を、画、出、ま、あ、り

横濱文庫三編終

